

## 第6回 酒田市総合計画審議会 議事要旨

### 1. 日時

平成30年2月15日(木) 13:30~15:00

### 2. 場所

酒田市役所 第一・第二委員会室

### 3. 出席者

#### 【酒田市総合計画審議会委員 計15名(敬称略)】

酒田市自治会連合会連絡協議会会長	阿部 建治
酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴 勝
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤 善一
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	兵藤 清彦
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤 吉男
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克
北庄内森林組合代表理事組合長	高橋 治雄
山形県漁業協同組合参事	西村 盛
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善
酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子
特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐 晃子
東北公益文科大学学長	吉村 昇

#### 【事務局(酒田市)】

市長、総務部長、消防調整監、企画振興部長、市民部長健康福祉部長、農林水産部長、水産林政調整監、商工観光部長、建設部長、上下水道部長、上水道技監、教育部長、政策推進課長

### 4. 議事要旨

協議(1) 酒田市総合計画(答申案)について【資料1~4】

事務局より資料に沿って説明

#### 意見等

(委員)

これまで膨大なデータを集めまとめられたこと、また色々な意見や提案に対し真摯

に应运ていただいたことに敬意を表する。この計画では市民との協働・共創というのが大きなテーマになっている。市役所による計画なので仕方ないが、内容的には市役所と市民との協働という部分が中心の記載になっていると思う。その他にも市民同士、市民と事業所、市民と各団体による協働も当然にありうるので、それを市としても支えるということを常に意識していつていただきたい。社会福祉協議会としてもその役割を担えるよう、市と連携してやっていきたい。

(委員)

数年にわたって委員を務めさせていただいたが、これまでのプロセスにおける市職員の方々の誠心誠意の対応、非常に好感が持てた。例えばこちらの意見や提案を後日まとめてくださった後に訂正の必要性の確認を取ってくれたり、毎回資料として前回からの変更点を提示して下さったり、こういった対応はこれまでにあまり経験がない。市民目線に立って一生懸命やってく下さったと思うし、高く評価したい。あとは度々申し上げているように、思わず多くの市民が手にとって読んでくれるような冊子を作っていたきたい。

#### **【答申にあたり総合計画審議会会長あいさつ】**

これまで1年7か月に渡り総合計画審議会を開催し、本日無事に答申案を作成することができた。酒田市の10年間の発展計画について網羅的な内容で答申することができると感じているし、委員の皆様も同じ思いではないかと思う。まずは内容について特筆すべきは市役所の職員が頑張つて案を作られたことであり、これは努力の賜物。シンクタンクを使うことなく自分達の力でこの案を作つたということで、特に若い職員にとっては将来必ずやバイブルとして生きてくる。今後、人づくり、ものづくり、住みたいまちづくり、この3つをキーワードに、10年後を見通して人口減少を防ぐ形のよりよしまちづくりを進めていただければ、審議会会長としてこれまでの皆様のご努力に報いることができるかと思う。各部会での丁々発止の意見、未来会議での若い方々からの意見を受け止め、特筆すべき答申となつた。本日をもって審議会は終了となるが、この経験を活かして酒田市の発展のため今後も皆様のお知恵を、市長始め市役所の皆様にお伝えいただければ幸い。

#### **答申**

#### **【市長あいさつ】**

1年7か月に渡るご審議に感謝。総合計画策定のスタートからは丸2年ちょっと、未来会議を通じて多くの皆様からご意見をいただききてきたこのプロセスこそが、まさに市民参画だった。これだけ長く深く、市民の皆様を巻き込んで計画を作つたことは今までなかったのでは。その自負があるし、周りの方々へも声を大にして伝えたい。個人の思いとして、とりわけ東北公益文科大学をつくる時に関わつた人間として、大学まちづくりというのは常に頭にあつた。そういう意味では、吉村学長から審議会会長となつていただいたこと、公益大の先生方からご指導をいただきながら多くのワークショップを開催してきたことなど、今回の総合計画策定は大学まちづくりの

一つの形になったと認識している。職員は手間暇のかかる作業を一つひとつこなしながら、この2年間一生懸命にやってくれたと思う。本来であれば内向きにご苦労さんと言えばいいのだが、ぜひ審議会の委員の皆様の前で酒田市役所の職員を褒めてあげたいと思った。あとは市長を始め我々執行部隊がこの計画に則って事業や施策を実施する中で、酒田をより発展したまちにどうやって持っていくか、成果が上がるように検証を重ねながら取り組んで参りたい。

## 報告（1）酒田市国土利用計画（案）について 事務局より資料に沿って説明【参考資料1～3】

### 意見等

（委員）

土地の有効利用として「水面・河川・水路」とあるが、海面は入ってこないのか。酒田にも協働漁業権漁場が当然ある。川が入っているのに何故海が入っていないのかと、海の関係の仕事をする者として単純に思った。すぐに回答は求めないが、後からでも教えて欲しい。

（⇒国土利用計画は陸域について定めるものであり海面については定めていないが、関連する部分として、陸域と接する海岸及び沿岸について定めている旨を、審議会終了後回答）

### その他 各委員より一言

（委員）

酒田市の教育向上がもっとも大事ということでお話をさせていただいてきた。幼少期から一流のスポーツ、芸術に触れることで、夢が描ける。未来会議で老若男女多くの市民の皆様に意見をいただいたことに感動した。このような意見を発表できる場を作っていただいたことに感謝申し上げます。

（委員）

丸山市政については市民目線であることを常々感じていた。まさにこの総合計画は市民を巻き込んだ素晴らしい計画になったと思う。個人的には今年度の市議会議員選挙の立候補者が多かったのは、この取り組みの効果でもあるのではないかと思う。計画策定に参加させていただき勉強することが多々あった。まとめてくれた職員の皆様に感謝する。

（委員）

超高齢社会、今の市役所の部課長の方々も退職して地元に戻れば一人の市民になる。これから市民目線に帰ったとき、各コミュニティ、各自治会等で大いに活躍されるよう努力してほしい。一緒に保護司をやっている中には市役所出身で活躍している人が多い。退職後は各地域からいろいろなポジションでの期待があると思うのでお願い申し上げます。

(委員)

手話の講座に一年間参加した。震災後ボランティアをやっているが、被災地の障がい者の手助けになればと思った。この総合計画の中でも障がい者に関する部分について取り上げていただいたことに感謝申し上げる。

(委員)

松山は小学校も統合になり、少子高齢化が進行する中でどのようなコミュニティで、どのような活動をしていくか、苦心しているところ。今回いろいろ勉強させていただいたので、酒田市の総合計画に沿って松山もよい方向に向かえればよいと思っている。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(委員)

個人的には自分が何の役に立ったか、難しい会議だと思いながら参加させていただいた。自分の置かれた立場で、自分にできることを、市民の一人としてこれからも微力ながら取り組んでいきたい。

(委員)

後戻りするわけではないが、答申案の5-5の政策については当初の草案には記載なく、二次原案への追加と言う形で出てきたため、いずれの部会においても議論の集約や意見のやり取りがなかった。特に山村部、限界集落への施策については個々の計画になってくると思うが、中山間地域を抱える商工会としても注視していきたい。全体的によくまとまった計画で、担当された職員の方々、審議会の皆様に感謝する。

(委員)

海岸の松くい虫、昨年より若干減っている。今年の大寒波によりどう影響があるか注視している。自分の山に十数年前に県の浄水場ができた。流れている水を見るにつけ、今後木を伐採したとしてもすぐに植林して、きれいな水が流れるようにしないといけないと感じる。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(委員)

今回総合計画策定の委員に選ばれたからには、10年後、これが良かった、ここが駄目だった、というところをはっきり言っていき、駄目だったところを引き続きそのままやることがないように、責任を持って酒田市民の一人として意見を言えるような参画の仕方をしていきたいと思っている。漁業に関する部分をたくさん取り入れていただいたことも含め、作成にあたっていただいた市役所の皆さんにお礼申し上げます。

(委員)

地方から色々な仕事が奪われていって今の時代を迎えており、産業をこの地域に根付かせようとお努力いただいているところだと思う。国と地方や、国際的な関係性も変動している時代にあって、その変化に対ししなやかに、又したたかに酒田らしさを活かしながら生き延びることが大切。柔軟な対応をお願いしたい。職員の皆様の対応、ご努力に感謝する。

(委員)

地域を作るのはそこに住む人たち。またそういう意識を持っている市民はきっといる。その表れが未来会議に結集した人たちではないかと思う。そうした人たちの思いや力を集結させていくことがまちづくりにつながる。この10年間で協働・共創という理念が

酒田市の中に浸透し、あちこちでいろいろな人がまちづくりに関わり、またそれを目にすることで次代を担う人材が育っていくという連鎖ができることを期待し、また我々もその役に立てるようにしていきたい。

(委員)

自分が教員として酒田に来たときは、酒田には文化人と呼ばれる先輩方が多くいた。そしてその先輩たちは私たちを育てようとしてくれた。しかし人材を育てることは難しく、先輩方の遺徳をきちんと受け継いでいるかと言われれば、答えられない。3年前の新聞によると、文化芸術施設に一度も足を運んだことがない人が50%いるという。酒田でもよくて30%くらいはそういう人がいるというデータがある。文化芸術を観ること、聴くこと、触れることは大事。そういった部分が計画に入っていることを喜んでいく。市民の前向きな活動に対して大きな光になるのではないかと思う。

(委員)

農業の一助となるべくグループ活動を行ってきた。市を始め皆さんとたくさん活動をしてきて、多くのことを勉強させていただいた。今回この総合計画策定のために自分達が何を返していけるだろうかと考えながらやってきたが、それよりもまた勉強させていただくことが多かった。協働・共創という言葉が心に残っている。今後また自分達にも出番があるのではと期待している。これからも未来会議のように我々市民を活躍の場に引きずり出していただきたい。

(委員)

社会情勢の変化とともに子育てをめぐる環境も大きく変わった。いろいろなお母さんたちから、酒田はいいところと言われる。特に人柄について、子育てに対しても優しいといい、そのたびに誇らしい気持ちになる。特に若い世代をどんどん引きずり込んで、その話をよく聞いてくれる、という点ではどこの市町村にも負けない力を持っているのではないかと感じている。新しく酒田に来たお母さんたちに酒田の良いところをたくさん紹介するような活動に力を入れている。今回このような委員に選んで頂いたことに御礼申し上げます。

以上